

患者氏名 \_\_\_\_\_ 様

鹿児島大学病院

## 血液検査で HIV ウイルス抗体陽性が判明した患者さんへ

HIV 感染症とは、ヒト免疫不全ウイルス(Human immunodeficiency virus ; HIV)に感染した状態のことを言います。また後天性免疫不全症候群(acquired immunodeficiency syndrome ; AIDS)は、HIV の感染によって免疫力が低下し、日和見感染症や悪性腫瘍を合併した状態をいいます。

感染初期に発熱などのインフルエンザ様症状がみられることもありますが、数週間で消失します。その後無症状ですが他人にウイルスをうつす危険性があり、この時期を、「無症候期」といい、平均 10 年くらいといわれています。長い無症候期の後、リンパ節の腫脹、発熱、下痢、体重減少、倦怠感や寝汗等が、1 か月以上続きます。さらに免疫力が低下すると、健康な時には抑え込まれていた体内の細菌やカビ、寄生虫、ウイルスなどによる感染症（日和見感染症）、悪性腫瘍（カポジ肉腫など）、神経症状（HIV 脳症など）が見られるようになります。

今回の検査はスクリーニング検査であり、結果が陽性になっても偽陽性（本当は感染していないのに陽性になること）の場合があります。そのためさらに確認検査が必要です。

現在、抗 HIV 薬によってウイルスの増殖を抑えエイズの発症を遅らせ、免疫能を回復させることが出来るので、生命予後はかなり改善されております。このような治療の適応については専門医の診断が必要ですので、精査を行う予定です。

ご不明な点は、担当医師にご遠慮なくおたずねください。

説明日 \_\_\_\_\_ 年 月 日

説明担当者 所属 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_